

●**地域説明会 9日井手町 勤労者福祉会館** 30人の参加 大きな体育館で中段の廊下からひもを吊り、パネルを下ろさなければならなかった。この仕掛けに約1時間を要した。スタッフは14人も揃っていただきました。11時ごろにはパネル100枚の掲示が完了し、南山城水害の30年の記録の放映のプログラムに移りました。DVDでの読み込みに不都合がありました。それでも11時開演時間には修復が間に合いました。参加者は熱心に聞き入っていただいた。改めてこの地でこんな大災害が発生していたことは、記憶から全く消えていたようである。続いて有田さんによる里山の会の活動紹介を腹話術で発表していただいた。22日に丹波篠山市で活動団体の交流会があり、そこでの出演へのリハーサルを兼ねて発表を頂いた。これまでの腹話術ではなくて、かなり技術力がアップされたようでした。初めての台本でしたが、しっかり内容は伝えられていた。感想では随分と好評であった。シナリオの背景に活動場面の写真を活用するとさらに迫力が増すのではないかとの意見があった。ここで昼食休憩となり、午後1時から現地見学会で知っておきたいこと見ておきたいことで、井手町をめぐりました。まず京都市の円山公園の枝垂れ桜が有名であるが、井手町地藏院の枝垂れ桜も見事である、ここを最初に訪れた。そして有王を訪ねる予定にしていたが、通行止めのため、断念する。道を折り返し、椿坂を下り、玉川の溪谷からの出口の宮本の水車跡を見学、ここで水害のひどさを実感、次に橘諸兄の墓を訪ねる。約300mの往復で手入れの行き届いた竹藪を見る。次にJRが玉川の下を通っている現場をみて決壊場所を訪ねた。玉水や石垣地区を総なめした場面を想像した。JR玉水駅に流れ着いた6トンの巨石を眺める。時間に余裕があったので、蛙の池を訪ねた。初めての現地見学会は約2時間のコースで大正池に行けなかったのが残念だった。

●**続いて翌日10日は久御山町で中央公民館**での取組みである。展示物は研修室で、会議机がたくさんあったので、パネルの展示は机を利用した。昨日よりも能率よく並べ作業が進んだ。約1時間で完成した。ミニ講演会を予定より20分早く開始できた。講師袖岡勝氏で数年前には会計の事務処理を担当していただいたので、顔見知りで気楽にお話を聞いた。宇治川堤防の決壊時における先人の洪水時の伝承、久御山町は淀苗の本場で、現在はネギの出荷が農家の大きな収入源になっていること、そして町の大きな変貌を遂げた国道1号線の出現とその役割、そして鉄軌道が無いのが一番の悩みであること等、多岐にわたってお話があった。午後からは木津川の付け替えによって残された木津川の旧堤防を見学し、巨椋池の変遷を現地で学ぶ。続いて農水省によるものと国交省による二つの大排水機場を宇治川の堤防から見学した。そして宇治川の決壊した現場まで足を伸ばした。帰路には古川堤をドライブ、淀苗の産地となっているビニールハウスの林立する農地を通して公民館に戻った。

●**三連続休日の最後は精華町での展示会**で、けいはんな記念公園の研修室を借用しての展示会である。寒波が襲来して、朝から雪が舞っているかなり厳しい天気だった。この調子だと足場が遠い公園には参加者少ないとの予想。また駐車場も有料であり、かなり離れているという悪条件であった。しかしスタッフの皆さんは悪条件を乗り越えて集合いただいた。三回連続の展示になるのでそれぞれが創意と工夫を凝らして楽しい展示会場が作り上げられた。ここでは1時間も使わずに完成できた。少し余裕があった。会場のけいはんな記念公園で、取り組みをお話頂きたいとのリクエストに応えてくれたのは、近畿大学で桜谷先生の教え子の稲本さんだった、開始予定より少し早めに開演となった。受付の職員さんが来園者に案内をするからとチラシを取りに来てくれた。その甲斐があつてか、稲本さんのお話が始めると数人の方がお越しになって参加してくれた。用意したイスが足りなくなって追加した。記念公園の設立された動機やその後の発展させていく方向性、そしてイベントの取組みや先の見通しについて正確に分析されておられた。こうした公園の取り組みをお聞きして、里山農園の目的や予定や計画性の設定の必要性について刺激を受けることができた、いい

機会であった。午後にはギネスブックに記録されている世界一大きい日時計を見学し、そのさしている方向が北極星で、イベントの折にはレーザー光線が発射されている。続いて人形浄瑠璃の近松門左衛門の作品に「心中宵庚申」があり、その物語の主人公の「お千代半兵衛」のお墓を訪ねた。府道木津八幡線から 50m ほど西に入った來迎寺というお寺の境内にあった。ここで大釜さんから江戸時代の文学や歴史、人の暮らしの変化などについて詳しく説明を受けた。この 3 連続の地域説明会の開催は厳しい日程であったが、有意義な取り組みであった。ぜひ多くの皆さんを案内したいものである。次回は 16 日で笠置寺も楽しみである。

●12 日に、カスミサンショウウオの生息池修復 近年の激しい豪雨によって、生息池の半分が流れてきた土砂にうずもれて半分以下に小さくなっています。桜谷先生もこのままでは池が消滅するかもしれないので、早急に生息場所の確保のために堆積した土砂の除去しカスミサンショウウオの生息場所の確保の必要があると指摘されています。金田さんもかなり深刻に心配されていました。前日の地域説明会に引き続き森島さん太田さん、金田さんが申し合わせて、土砂の取り除き作業を実施していただきました。約 2m 四方の堆積土砂の取り除きを行い、少し水が溜まりだし、池も倍に大きく復元できました。一安心です。ところで監視カメラにはアライグマやタヌキが朝に夕に連日のように出没しており、毎夜のごとく撮影されています。このままでは、相当危険な状況だと判断できます。カスミサンショウウオの成体が必ず狙い取りされてしまう可能性が日増しに大きくなってきています。先にも書きましたが、去年の卵囊の発見からわずか数匹の成体が命をつないでいるに過ぎないのです。1 匹の成体の命を失うことははかりしれない打撃になります。このままの放置は良くないと誰もが判断できるものです。動物の捕獲ではなく、早急に池周辺に近づけなくする防護柵の設置を急がなくてはなりません。同時に電気柵の設置も必要ではないでしょうか。

●里山展 13 日～17 日まで京田辺市中央図書館ギャラリーかんなびで開始しています。今年の中聖牛の取り組みを中心に作品を展示しています。昨年に設置した第 1 次の聖牛は 7 回ほどの洪水に流されもしないで大きな役割を果たしています。流れ来るゴミをつかめたように絡んでいます、大きな成果を発揮しています。洪水に流されなく頑張っている姿を写真にしています。そして 12 月に設置した新聖牛 3 基の写真を並べています。できれば設置現場をご覧になってください。またご感想をお寄せください。お待ちしております。

●16 日は地域説明会の 4 回目で、笠置町の産業振興会館で開きます。午前 10 時には開館となります。ミニ講演会は「木津川はどんな川」のスライドを上映します。都合がつけば耳よりなお話も可能かもしれません。現地探訪は摩崖仏や遊びカヌーの記念碑を訪ねます。そして地域説明会の最終回の 24 日（日）には南山城村「やまなみホール」研修室で開催します。ミニ講演会には「木津川の鮎の遡上と地域活性化」について山城きっての鮎の研究家河川レンジャアドバイザーの谷口信彦氏（前東北大学教授）からお話しをお願いします。そしてお水取りは二月堂ですが、島ヶ原の正月堂を訪ねます。続いて伊賀市岩倉の岩倉峡と上野遊水池と鍵屋の辻、上野城の石垣を見学します。こぞってご参加ください。お越しをお待ちしています。

●桜谷先生から「なごや生物多様性ガイドブック」を寄贈いただきました。目を通してみると実にわかりやすく丁寧な素晴らしいガイドブックである事がわかりました。どなたでも一度は目を通しておくべきガイドブックでした。「自然を大切にする仲間の輪を大きくする」スローガンを掲げている里山の会員にとってぜひ読破してほしいガイドブックです。里山の会事務所に置いてありますので、ご覧になってください。

発行は

なごや生物多様性保全活動協議会。電話：052-831-8104 住所：名古屋市天白区元八事五丁目 230 番地。